

## IACR国際学会に参加して

● 茂木 文孝 理事

(公財)群馬県健康づくり財団 がん登録室



「先生、コーランを覚えてください。」「えっ!?!」  
「コーランを唱えれば、いざという時に助かるかもしれません。」  
一緒に働いているA医師が、コーランの覚え方が記載された  
プリントを差し出した。

モロッコの街、マラケシュを訪ねてみたいという好奇心で、深く  
考えもせず抄録送信をクリックしたのだが、安全な日常を振り  
切ってわざわざ危険な場所に出かける不安が頭をもたげ、旅立  
ちの緊張と憂愁の間で心が揺れ動いた。

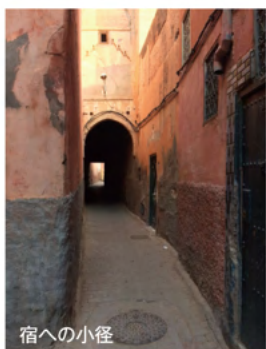
長旅の末に到着したマラケシュ駅には、約束どおり宿の名  
「Riad Argan」と書かれた紙を持った男が立っていた。導かれる  
ままに男が運転するタクシーに乗る。ある小さな広場に到着する  
と、今度は別の男が現れて無言で道案内を始めた。男は壁に囲  
まれた細くて薄暗い路地へ足早に入っていく。いよいよ逃げ出  
そうかと思った時に、壁のドアが開いた。そこには宿の女将フランソ  
ワーズが立っていて、手を差し出した。

「お目にかかれて嬉しいわ!」「ぼ、ぼくもです。」

宿はパティオを取り囲むように客室が5部屋。壁の外は街の喧  
噪に溢れているが、宿の中は静寂な時間が流れている。

学会の第1日目は、アフリカのがん登録室を紹介するセッション  
が組まれていて興味深く聴取した。男性は肺や前立腺、女性は  
乳房や子宮の癌が多い。当地の衛生環境を考えるとピロリ菌感  
染率は高そうだが、アフリカでは胃癌は少ない。民族によって罹  
患の多い癌が異なり、北アフリカは肺癌とのこと。イスラム教徒  
は、酒は飲まないが喫煙率は高いのであろう。嗜みタバコの習慣  
がある民族では口腔癌が多い。遊牧民が多い国ではがん登録に  
よる計測が難しいことを紹介していた。

休憩時間では、コーヒーやお菓子が並べられている中庭で、



宿への小径



学会場

鳥のさえずりを聞きながら歓談ができた。参加者はリゾートホ  
テルに流れるゆったりとした時間にはまってしまい、なかなか隣の  
会場に向かおうとしない。進行係が鳴らす鐘で時間が経ったこと  
に気がついた。夕食はジャマ・  
エル・フナ広場のレストラ  
ンで、タジンとモロカンサラダ  
を食べたのだが、夜半に下痢  
をした。明け方になってよう  
やくうつらうつらするが、遠く  
近くアザーン(祈りを呼びか  
ける声)が響きだし、また目が  
覚めてしまう。朝食は食べら  
れたが倦怠感が強いので、学会は欠席して宿で休むことにした。



休憩時間

昼頃には気分が良くなってきたので、宿にほど近いバヒア宮殿  
に出かけてみた。この宮殿は日暮の門ならぬ日暮の宮殿と言っ  
ても良い。床のタイルから壁の漆喰彫刻、天井の細密画に至る  
まで、ことごとく意匠が凝らされていて、お妃が好むような明るく  
優しい色調で全体がまとめられている。日暮れまでたたずんでい  
たかった。

学会からの帰りもマラケシュから列車に乗った。街のいたる所  
でモスクや礼拝所を見かけたが、駅構内にも礼拝所がもうけら  
れている。

出発してしばらくするとコンパートメントの若者がお菓子を皆  
に配った。またしばらくすると、乳飲み子を抱いた若い女性が現  
れた。皆がいっせいに金を彼女に差し出す。あつけにとられた  
が、これらはイスラム教徒の義務であるザカート(喜捨)なのであ  
った。

日本ではもっぱら西欧文化を輸入し、クリスマスなどでキリスト  
教にふれる機会が多いが、12億人ものイスラム教徒の日常の姿  
には私たちは馴染みがない。IACR国際学会に参加して勉強や  
発表ができたのは有意義だったが、地球には色々な文化や宗教  
があることを実感できたのも得難い体験だった。

結局、コーランは覚えられなかったが、その内容のごく一部は  
感じ取れたようだ。そしてなによりも、丸暗記しなかったことを後  
悔するようなアクシデントがなかったことは幸いだった。